鳥と共存できる街を創るために

つくば市立吾妻小学校　六年　樋野 遥

私の住む街では、鳥が嫌われている。フンや鳴き声で、人に迷惑をかけるから、街路樹を切ったり、追い払う音を鳴らしたりしている。私も、フンを落とされたり、おやつを取られたりして、嫌な思いをしたことがある。

私は以前、八溝山の木を使った木工教室で本立てを作った。木が余ったので巣箱とエサ台も作って庭に置いた。「ツピー、ツピー、ツピツ、ツピツピー。」それからは毎年シジュウカラが庭に来るようになった。去年はメスとオスがつがいで来た。ある日から、メスが毎日巣箱にコケをくわえて来るようになった。オスが見張りをして、「ツピツピー、安全だよ」「ジジジジ、危険だよ」とメスに教えていた。私が見ている間にも、ひっきりなしに巣箱を出入りしていた。もしかして子育てしようとしているのかな、と思って巣箱の中を見てみたら、ふわふわのコケのベッドの上に、卵が五つ乗っていた。鳥の留守を見計らって卵の観察をしていたが、ある日、近所の猫が触って、巣箱が落っこちてしまった。あわてて見に行ったら、卵はコケのベッドのおかげで一つも割れていなかった。

その後、私は簡単には倒れないように、巣箱をひもでグルグルに巻いて固定した。しかし、二、三日すると、親鳥が巣箱に来なくなってしまった。猫のせいだろうか、ひものせいだろうか。このままでは卵が死んでしまう。私は学校にふ卵器を借りに行った。前にカモの卵をかえしたふ卵器だったが、もう学校には無かった。仕方なく数日待ったけれど、卵はかえらなかった。とても悲しかった。

一生懸命子育てする鳥たちを身近に観察していたら、私は鳥が大好きになっていた。私は、将来鳥と人が共存出来る街を作りたい。もっと自然を豊かに残し、鳥が人に迷惑をかけない所でエサを取ったり巣を作ったり出来ると良い。今年も鳥たちは来てくれるかな。今度はヒナを見てみたいな。

野山の妖精キンランとギンラン

つくば市立吾妻小学校　六年　樋野 葵

「なんでこんなところが立入禁止なんだろう。」三年生の夏、近くの公園で黄色と黒のテープに囲まれた場所を見つけた。「希少植物観察中」とあるが、植物は見当たらない。気になって管理人に聞いてみると、「キンランとギンランだよ。春に花が咲くから来年になったら探してごらん。」と教えてくれた。家に帰って調べてみると、キンランとギンランはラン科の多年草で、キンランは黄色い花を、ギンランは白い花を咲かせることがわかった。また、昔は身近な野山でごく普通に見られていたけれど、開発や、里山の手入れ不足、乱獲が原因で、最近ではほとんど見られなくなり、私が住む茨城県では準絶滅危惧種に指定されていることがわかった。

待ちに待った次の春、初めて見たキンランは卵のような黄色、ギンランは絹のような白色の花をつけていた。ベルのような形の花は、小さな妖精みたいでとてもかわいかった。

家族で少し遠くの公園に行った時も、木の下にキンランが咲いているのに気づいた。公園の端から端まで家族で一生懸命探してみると、全部で六十本ぐらいあった。急いで公園の管理人に話すと、「きれいな花が咲いているのは知っていたけれど、これが希少植物だとは知らなかった。」と言っていた。私はそれから近所の歩道脇や空き地でたくさんのキンランとギンランを見つけることができた。

キンランとギンランは土の中の菌と共生する不思議な花だ。きれいだからといって、自分の庭などに植え替えても枯れてしまう。私は学校で、キンランとギンランのことをみんなに知ってもらおうとスピーチした。知ってもらう事は守ることへの第一歩だからだ。

今年もいつもの公園に、キンランとギンランが咲いた。花の周りには、まだテープがあるけれど、私が大人になる頃には、準絶滅危惧種から外されるよう、大切に守りたい。